

尼崎市事業所景況調査

【 2020(令和2)年1-3月期 】

業況判断DIは全産業で悪化 欧州債務危機の影響等のなか、現安倍政権に交代した2012年並みの低水準に

<調査結果のポイント>

- ◎ **出荷額DI** 製造業は大幅に低下。非製造業は低下、とくに建設業、卸売業で大幅な低下。
- ◎ **収益DI** 製造業は大企業で大幅な低下。非製造業は建設業、卸売業で大幅な低下。
- ◎ **資金繰りDI** 全産業で2013(平成25)年1-3月期以来の低い水準に。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断DI** は、▲32.4(12.5ポイント低下)で悪化。過去7年間で最も低い水準です。来期は改善の見通し。
 産業別では、製造業は▲32.8(18.8ポイント低下)で悪化。非製造業は▲32.3(9.6ポイント低下)で悪化。製造業の規模別では、大企業が▲20.0(14.7ポイント低下)、中小企業が▲34.7(18.9ポイント低下)でともに悪化。
 非製造業の業種別では、建設業が▲21.6(24.9ポイント低下)で大幅な悪化、卸売業が▲42.4(35.0ポイント低下)で大幅な悪化、小売業が▲51.0(6.7ポイント上昇)で改善。サービス業は▲26.0(6.2ポイント低下)で悪化しました。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高DI** は、▲31.2(16.3ポイント低下)となり、マイナス幅が拡大。
- (3) **売上単価・客単価DI** は、▲14.4(5.7ポイント低下)で、悪化。
- (4) **(原材料)仕入価格DI** は、23.9(6.0ポイント低下)で、改善。
- (5) **在庫水準DI** は、7.3(3.9ポイント上昇)で、やや上昇。
- (6) **収益DI** は、▲37.1(13.0ポイント低下)で、マイナス幅が拡大。
- (7) **資金繰りDI** は、▲19.3(5.5ポイント低下)で、マイナス幅が拡大。
- (8) **従業員の過不足DI** は、▲38.5(0.1ポイント上昇)となり、横ばい。
- (9) **設備投資を実施した企業割合**は、27.6%(4.8ポイント上昇)とやや上昇。来期はやや低下の見通し。

【ご注意ください】本調査は2020(令和2)年2月に実施したものです。期末(3月末)までに生じる新型コロナウイルス感染症拡大の影響をすべて反映するものではありません。

注1: DIは景気動向指数「ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」)と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」)と回答した企業の比率を差し引いたものです。
 注2: ()内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和2年2月12日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 35.9%
- (5) 事業主体: 尼崎市
 調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

<本資料の問い合わせ先>

- 尼崎市 経済環境局 経済活性化課
 担当: 西岡・下司 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当: 宮崎・井上 連絡先: 06-6488-9501(代)
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

業種	回収数	回収率(%)	配布数
全産業	359	35.9	1,000
製造業	113	42.6	265
大企業	15	40.5	37
中小企業	98	43.0	228
化学	13	38.2	34
鉄・非鉄	31	43.1	72
一般機械	31	49.2	63
電気機械	13	37.1	35
その他	25	41.0	61
非製造業	246	33.5	735
建設業	37	47.4	78
卸売業	26	45.6	57
小売業	51	30.0	170
サービス業	132	30.7	430

